

演題名：新型コロナウイルスが引き起こす呼吸器感染症

演者：大曲 貴夫

国立国際医療研究センター国際感染症センター長・感染症内科医長

抄録：

新型コロナウイルスによる感染症では、喉の痛みや微熱、倦怠感などの風邪の様な症状が1週間程度続いた後徐々によくなっていきます。しかし最大20%程度の患者さんでは、発症後1週間前後から咳や高熱が出始め肺炎になり、酸素の吸入が必要になります。そして1%の前後の患者さんが重症の肺炎になり、人工呼吸や膜型人工肺による治療必要になります。日本では新型コロナウイルス感染症で1-2%の患者さんが不幸にも亡くなります。

治療としては、ウイルスが増えるのを抑えるものと、炎症を抑える治療があります。ウイルスを抑える治療としてレムデシビルがあります。国際共同研究で効果が示され、日本では2020年5月7日に特例承認制度に基づき薬事承認されました。炎症を抑える治療としてはステロイド薬であるデキサメサゾンや、関節リウマチの治療薬であるバリシチニブに効果があることが示されています。